



学園花の村機関紙第99号

2017年12月1日(金)

編集兼発行人 伊藤公博

☎ 042-636-8290

Fax 042-636-8291

〒 192-0914

八王子市片倉町
937-78

学園はなの村

創立二十年の足取り

月並みな感想ですが、早いもので一九九八年五月、静岡県掛川に7町歩の実験農業地を持つ研究会「学園はなの村」を設立して二十年が経ちました。この間「有機農業」・「相互扶助」・「自助努力」を合言葉にひたすら環境に優しい農業に汗を流してきました。その出発点は都市と農村が力を合わせ農地の荒廃を防ごうという菊川市古谷の故宮城正雄翁(元古谷報徳社社長)の小田原の報徳博物館での呼びかけでした。来年五月の二十周年を前に、掛川に蒔かれた一粒の麦のこれまでの成長過程を追ってみます。

学園はなの村と光陽の里

「みんなでやろう小さい農業」

宮城さんの講演に心打たれたゼミの仲間と勉強会が始まりました。「村研究会」です。ここに宮城さんの懇望をうけて遠く愛媛から津野幸人先生が来られて、指導に当たられました。先生は小農論で著名な元鳥取大学農学部長、先生の提案は、農業は実践である。二十町歩の

実験農地を確保し一人一反の有機農業を実践

する。それに農業倫理の基本である自助努力と相互扶助が合言葉となりました。会の初代事務局長松井さんたちの働きで光陽に7町歩の畑が利用できるようになりました。仲間募集の呼びかけも大変でしたが、皆希望に燃えて慣れぬ作業に打ち込みました。津野先生は遠路愛媛から度々来掛、指導に当たられました。

この経緯と熱気溢れる活動状況は《みんなでやろう小さい農業 学園はなの村・光陽の里編》という冊子になっています。また《みんなでやろう小さい農業》の索引で科学映像館フアイルの動画を見ることが出来ます。

農住接近の地を求めて 倉馬の里

実顕農地が確保できてすぐ浮上したのが遠隔地から参加する人の住居の問題でした。これは経費だけでなく農地法の観点からも難問でした。家研究会が組織され、倉真と初馬にまたがる篠竹に覆われた棚田の跡地が候補に挙がりました。今は伝説の宮城さんの奮闘、家研究会員の努力で倉真と初馬の境に家と畑の隣接

した「1町歩ほどの場所ができました。畑候補地には篠竹の根を腐らすために、きのこセンターからもらってきたおがくずを敷き詰めました。「倉真」と「初馬」から一字ずつとって、ここを「倉馬の里」と名づけました。しかし都会からの利用希望者は集まらず、当初予定したクラインガルテン構想は課題として残りました。

里山倶楽部の活躍

月の半分を倉間の里で暮らす事務局長藤本さんに倉間の里の活用を頼まれた地元の溝口さんの呼び掛けで24年6月、25名でスタートしたのが「里山倶楽部」、今では40名ほどの会員がわらび、しいたけ、そば、ごま、えごま、たけのこなど季節の山の幸をアイデアを持ち寄り、みんな楽しんでいきます。メンバーは多士済々、ここにツリーハウスやピザ窯も作りました。早速パーティ。棚田跡は美しく楽しく、又文化の香りを漂わせる里山になりました。

活き粋はなの学舎 柴桂子と

女性史研究家で「倉馬の里」前里長の柴桂子さんは家研究会の一員、倉馬の里設立の推進者でした。京都大学での学業を終えて今年、掛川市本郷でクラインガルテン生活を始めました。宮城さんの運動は、着実に広がりを見せておきます。一粒の麦の成長です。(伊藤記)

サカキ(榊)は神に供えられる木

小 関 栄

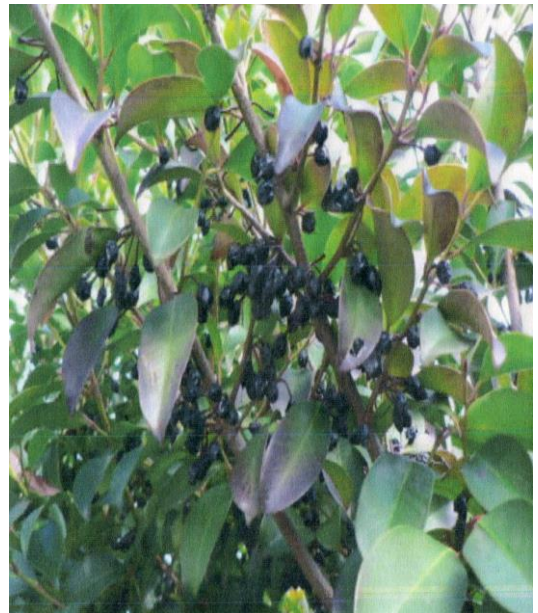
わが家の周りに沢山のサカキの木がある。椿に似た木で、この葉枝が神社の行事や祭典の際に供えられるので、漢字では神の木、榊と書く。常緑の木として栄木、栄樹とも書かれることがある。

サカキの木は日本では古くからあって、古事記は真賢木(まさかき)として、日本書紀には賢木(さかき)として載っている。神話で八咫鏡(やたのががみ)を掛けたのも天岩戸の前の賢木であった。なお、万葉集や古今集などにもしばしば登場する。

文字として榊になったのは江戸時代からであろう。中国名は山茶科の楊桐(ヨウトウ Yangtong)で、中国には榊の字はない。

サカキの葉は厚い皮質の光沢ある常緑が特徴。花は5~6月頃に葉の根元に白い細花を付け、秋には熟して濃紫色の小球の実になる。

この木の同類にはヒサカキとシキミがある。ヒサカキは小さなサカキで姫榊であり、シキミ(シキビとも云う)はよく仏事に用いられるので、漢字では榊(または榊)と書く。シキミが佛の木として神の木・榊と対照的なのが面白い。



幸せを 祈る社の 花サカキ 淡水

「協同集会イン東海」参加報告

10月1日、名古屋市立大学でワーカーズコープ主催の会合が開催され、花の村から藤本、全国報徳団体連絡協議会から尾島輝雄会長が出席いたしました。ワーカーズコープは「協同労働の協同組合」といい、最近注目されている団体です。

全体会議では250名ほどの参加、分科会では30名ほどの参加、分科会で協同組合のルーツである報徳について、尾島さんから、布マルチ稲作について小生から説明いたしました。「協同労働の協同組合」は現在、法制化運動を進めておりまもなく認められるとのこと。実際の活動は会員であり生協の従業員である多数の女性陣の活躍が目立ち、それに理論的な指導者がおられ、「ともに生き、ともにはたらく地域をつくり、次世代につなぐ」というスローガンのもと展開を進めており、大きなエネルギーを感じました。今後とも注目していきたいと思えます。

学園はなの村事務局長 藤本 将

「^い活^{いき}粋^いば^いあ^いば^いの^い学^い舎^い」だより (3) ^い活^{いき}粋^いば^いあ^いば^いの^い学^い舎 柴 桂子

近くの八幡神社の3日間に渡る秋祭りも終わった。祭りの日には丁度ドイツのハイデルベルグ大学のジュデット・アロカイ先生が来訪され、一緒に祭りの行事に参加された。

夜の6台の神輿見物、当番の甘酒作り、給仕、片付け、直会まで参加され楽しまれた。

我が家の庭の早生のみかんは皮が薄く甘く、大阪、東京への発送に加え、ご近所の皆さんや来客へ配布して喜ばれた。畑には無農薬無肥料の大根、人参、里芋、牛蒡、ネギ、菜物が次々と出来、一人では食べきれず、来客へ根菜汁を供している。数種類の菊、山茶花、水仙、ツワブキなどが咲き誇り、活け花には事欠かない。

「^い活^{いき}粋^いば^いあ^いば^いの^い学^い舎」の活動も9月から開始した。手作りの道案内や行事の立て看板も友人が作ってくださり、毎週木曜日には1日解放して活け花、針仕事、囲碁、お喋りなどに興じている。月に一度第2日曜日の午後には「江戸期のおんな友だち」と題して私の心に残る江戸期の女性を取り上げ、その生き方を紹介し、皆で語り合っている。この会には遠方からの参加者も多い。

日頃も私が在宅の場合は「^い活^{いき}粋^いば^いあ^いば^いの^い学^い舎」は開放しているので、女性に限らず男性もいろんな方々が立ち寄ってくださり、今の季節はあちこちからこの辺の名物、皇室献上の次郎柿が届けられる。自然薯や茸類も届く。今日は天然の自然薯を山から掘ってきて長時間かけて摺り、鯖の味噌汁でのぼし、刺身を付けて食べる贅沢な山芋汁の会を地元の男性たちがご馳走して下さることになっている。

“会員の皆様にお願い”

新しい耕作者を紹介してください

ここ「はなの村 光陽の里」が立ち上がって20年が経ちました。農地中間管理事業が知事の要望で立ち上がりました。磐田に本部があり、其処に電話だったのですけど確認しましたが、農地の耕作者は一切受け付けていないことを伺いました。

自分の農地は自ら維持管理しなければならないと痛感しました。はなの村のモットーである、「自己管理」、「相互扶助」、「有機農業の実践」は変わりません。もう一度初心に戻って光陽の里の耕作者の皆様、新しい耕作者を紹介してもらいたいと思っております。

(光陽の里 楽農会代表 野田芳宏)

お知らせ：

「はなの村だより」は季節に合わせ春、夏、秋、冬の年4回、月初に発行します。

春号：3月、夏号：6月

秋号：9月、冬号：12月

平成29年度布マルチ稲作について

所在：初馬田んぼ 7畝5歩、

事業主体 里山倶楽部と共同

I. 収量35キロで昨年対比15%と大幅減収
(28年度 249キロ 27年度 240キロ)

II. 減収要因：

- 1) 代掻きが不十分で田んぼに高低差ができ、水口より遠い奥の方には十分布マルチの下に水を入れることができず、布マルチを浮かばせることができませんでした。ヒエが直接布マルチを突き破りヒエだらけになりました。
- 2) マルチ敷設前後付ききりの管理を怠った。
- 3) 年間の施業計画未策定、堆肥、追肥が無施肥。いわば基本的なことを怠っていた。

III. 津野先生考案の布マルチ稲作は画期的な稲作技術であり「学園はなの村」の資産として大事に育てていきたい。

学園はなの村 事務局長 藤本 将

里山倶楽部の活動ご紹介



ピザ窯が出来上がりました。

倉馬の里バーベキューハウスではバーベキューはもちろん、蕎麦を食べる会、オカリナやギターコンサート、忘年会、パンダ広場の母子招待などいろいろに活用してきました。こういう自然の中の環境での集いの楽しさをもっと広く知ってもらいたいと思い、昨年度ツリーハウスを作りました。そして、更にこの場を活用して行きたいと思い、今回はここにピザ窯を作ることになりました。

窯主要部分の資材は大石さん提供、7月に基礎づくり、耐火煉瓦の積み上げから始まって、10月に窯全体が完成、17日には火入れ式を行いました。11月8日にはピザの先生を招いてピザ作り教室を開いて焼き上げ、美味しく焼けることが実証されました。4ヶ月間熱く燃えたピザ窯担当メンバーの努力に敬意を表します。



ワラビ園整備作業

11月7日 ワラビ園草刈り作業を行いました。夏を越したワラビは背丈ほどにも伸びて刈るのに一苦労です。これで、来春には沢山のワラビが出てくるでしょう。出荷して里山倶楽部の運営資金の足しにもなります。



エゴマ収穫

11月14日 エゴマの収穫をしました。初めての栽培で収穫時期が良く分らなかったが、そこそこ採れると思います。会員の健康増進に寄与できれば幸いです。

手作りみそ、金ゴマ販売しています。

自家栽培大豆使用の高級品 会員価格

キロ 700円 (市販1000円以上)

金ゴマ 倉馬産 会員価格

100g 100円 (市販700円以上)

里山倶楽部会長 溝口博之